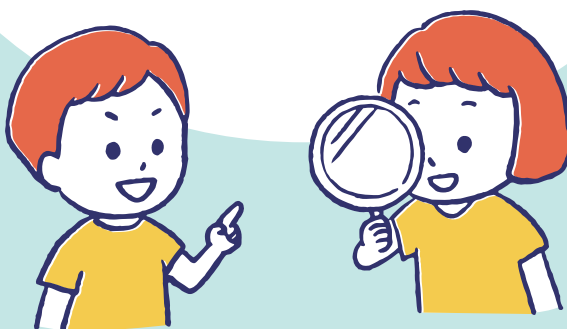


しまねの 学力育成 プロジェクト

～ 1年目の取組事例紹介 ～



令和5年3月

島根県教育委員会

しまねの学力育成プロジェクト

事業の目的

「しまねの学力育成推進プラン」にある「授業の質の充実」「家庭学習の充実」「地域に関わる学習の充実」を柱とし、子どもの将来の選択肢を広げるために理系分野への意欲・関心の喚起を図るなど、小・中学校等において学力育成が図られるよう取り組む市町村教育委員会に対して、必要な経費の一部を補助し、その取組の成果を全県に普及し、県内小・中学生の学力育成を図る。

実施期間 令和4年度～令和6年度

実施自治体

松江市教育委員会

大田市教育委員会

安来市教育委員会

出雲市教育委員会

雲南市教育委員会

実施内容

「しまねの学力育成推進プラン」を実現するための学力育成事業の実施

- 各教科等の学びが探究的な学びにつながる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業の実施
- 家庭学習とつながる授業の実施

市学力育成協議会の実施 (チームで支える)

- 各市協議会で、学力育成の取組方針を決定するとともに成果検証を実施

学校外部の活用（本物に学ぶ）

- 専門家の知識に直接触れる機会を設定するなど、各教科等を学ぶ意欲を高める取組を実施

経年調査の実施

- 成果を検証するための経年調査を実施

プロジェクトチーム会議の実施

- 県教育委員会、各市の担当者、外部有識者等でプロジェクトチームを組織し、各市の取組について検証

成果の普及

- 各年度末に成果報告会を実施し、市内の学校に成果を発表し共有
- 事業最終年度末にはフォーラムを開催し、その成果を全県に周知
- 県教育委員会はリーフレット等を作成し、各市の取組を全県へ普及

松江市

課題

- 自分の考えを文章で表したり、言葉で説明したりする力をつける
- 家庭学習の時間（中学生）

1 研究校 松江市立湖南中学校 松江市立乃木小学校

2 実施内容



○児童生徒の理解力や思考力を高める取組（ICTの活用）

- 小中学校ともに指導者用・学習者用デジタル教科書（小：国語・算数、中：数学）を導入し、ICT機器による問題提示や動画、シミュレーション機能を活用した学習を行っています。
- 学習ドリルソフトを導入し、単元のまとめや学習した内容定着を図る際に活用したり、授業時間以外に児童生徒が自主的に取り組む課題として活用したりしています。

○児童生徒の表現力を高める取組

- 中学校では、生徒が自分の考えを自由に記述する欄を設けたり、「振り返り」を記述する欄を設けたりするなど、ワークシートを工夫して、書くことの習慣化を図っています。
- 小学校では、児童が自分の考えを語りたくなるような教材との出会わせ方や学習課題の在り方について研究を進めています。学びの中で生まれた考えを、対話を通して確かめたり深めたりすることを目指しています。

○児童生徒の興味・関心・意欲を高める取組

- 中学校では、スーパーサイエンスハイスクール指定校である県立松江南高等学校の教員が、数学の授業や定期テスト前の学習会に参加するなどの連携をしています。また、島根県立しまね海洋館（アクアス）での校外学習に取り組みました。
- 小学校では、出雲科学館での校外学習を行い、身の回りにある様々な科学的な現象について体験的に学び、興味・関心を高めました。



高等学校の教員による学習指導



出雲科学館での校外学習

安来市

課題

- 算数・数学において、解法や式の意味等を説明することや既習事項と統合させて解を求めること
- 家庭学習の時間が少ないこと

1 研究校 安来市立第三中学校 安来市立荒島小学校

2 実施内容

○子どもたちが協働的な学びを通して、分かっていくための取組

「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した授業づくりについて研修しました。

- 荒島小学校では、比べ方を考える問題で、多様な考えを出し合い、ICTを活用しながら個々の考えを共有し、協働的な学びを進めました。
- 第三中学校では、あらゆる単元の中で発展的な問題を扱い、グループで協力して考えを練り上げていく授業が展開されました。



○子どもたちが自己の学びを調整し、豊かな学力を身に付けるための取組

- A Iドリルを研究校に導入しました。
第三中学校では7月より家庭学習を1人1台端末の持ち帰りによるA Iドリル学習に切り替えています。
荒島小学校では、2学期より朝の学習での利用をスタートし、各授業で担任が構成した問題演習に取り組んでいます。
授業の中での活用を進めています。



○子どもたちが意欲をもち楽しんで学習に向かうための取組

- さんそ学習館ケイオスとタイアップし、宇宙航空研究開発機構の清水氏（工学博士）を招いての出前授業「宇宙の教室」を実施しました。
児童生徒の感想からは、体験から未知のものを知る喜びが感じられました。



出雲市

課題

- 「めあてと振り返りを意識した授業スタンダード」を活用した組織的な授業改善
- 資料やデータ等の情報を読み解く力、読み取った情報を活用しながら自分の考えを論理的に構成する力、自分の考えを分かりやすく表現する力等をつけていくこと

1 研究校 出雲市立第一中学校 出雲市立大津小学校



2 実施内容

- 「めあてと振り返りを意識した授業スタンダード（以下「授業スタンダード」）」を活用した組織的な授業改善の在り方についての研究

「わかる授業」の実現のために、市として、全教科共通の授業づくりの考え方を示した「授業スタンダード」の普及・定着を図っています。この「授業スタンダード」は、「主体的・対話的で深い学び」に向かっていくためには、教員が単元（授業）のねらいを明確にもち、「まとめ」「振り返り」を具体的に想定しながら「めあて」を設定して授業を構成することの重要性を示すものです。（指導過程や指導方法を示すものではありません）。

「授業スタンダード」をもとに、教員一人一人が日々創意工夫を繰り返しながら授業力向上を目指すとともに、各学校において組織的・継続的な授業改善が推進されることをねらっています。また、研究校を中心に組織的な授業改善の在り方及び授業改善を実現する具体的な方策・ポイント・手順等を明らかにします。



- 教育指導員による学力向上訪問の実施

授業改善に主眼を置いた学校訪問とし、「校長等との協議」を通じて各校のニーズを把握し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善の組織的な推進を支援します。

- 1) 新任・転入校長対象訪問
- 2) 第1回訪問 授業視察と校長・授業改善推進リーダーとの協議
- 3) 第2回訪問 研究授業に係る事前研究 研究授業・授業研究
- 4) 第3回訪問 校長との協議



- 出雲市学力向上研修講座【「+1（プラスワン）講座」】の開催

各校における組織的な授業改善の推進や個々の教員の授業力向上を図るための研修。教科研修（算数・数学、国語）、授業改善研修（学力向上に向けた授業改善）、リーダー研修（授業改善推進リーダー等を対象としたマネジメント）

雲南市

課題

- 「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 「雲南市の授業づくりのポイント」を意識した授業づくり

1 研究校 雲南市立大東中学校 雲南市立大東小学校

2 実施内容



○スーパーティーチャー活用事業による研修会

- ・ 島根県立大学教授齊藤一弥氏 飯南町教育委員会教育長職務代理の烏田勝信氏
「能力ベースの授業づくり」を中心とし「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した研修



大東小学校で行われた齊藤氏の実演授業は、数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて考えることの指導で、白玉と黒玉を合わせた数を求めるためには、どのように計算すればよいかを考える授業でした。

個人で立式した後、児童が考えた3つの異なる式について、それぞれに自分の言葉で説明させ、全体で考えを共有しました。その際、なぜその式にしたのかを問い、「計算しやすいから。」「早く正確に計算できるから。」等の考えを引き出しました。また、齊藤氏は、児童が考えたそれぞれの式のよさを全体で考える機会を設定し、それぞれの式によさがあることに気付かせ、場面によって使い分けるとよいと指導されました。それぞれの考え（式）が価値付けされたことで、児童は満足感を感じていました。授業の最後に、齊藤氏は、「友達の書いた式から友達の考えが分かる、説明できるようになることが大事だ。」と児童に伝えておられました。

○外部支援の活用



大東小学校では、島根大学教育学部の学生が算数の個別学習の支援を行いました。児童からは、「先生よりも年が近かったので、分からないことを聞きやすかった。」「分からないことをたくさん聞けたので、分かるようになってうれしかった。」などの感想が聞かれました。

大東中学校では、環境問題と実験を融合させたサイエンスショー「らんま先生 環境エコ・パフォーマンスショー」を実施しました。生徒からは、「理科は、実験をしてみたほうがおもしろい。」「今回のショーで難しかったところを理科の授業で解決したい。」「環境問題は、理科で学んだことを工夫すれば解決できることもあることに気付いた。」などの感想が聞かれ、興味・関心を高めることにつながっていることが分かりました。

○経験の浅い教員への支援

- 勤務経験が5年以下の教員及び講師を対象に希望制で「授業プランニング講座」を放課後の時間帯に実施しました。今年度は、国語、算数・数学、社会、外国語、道徳を2回ずつ実施しました。講師が受講者のニーズに合わせてきめ細かに対応し、満足度の高い研修となりました。
- 初任者及び講師の先生方を対象に、「特別活動」「児童生徒理解」「ICT利活用のあり方」などテーマ研修を8コマ実施しました。
- 指導案や板書の写真、ワークシートなどの授業実践事例を収集し、市内の共有ネットワークに格納しており、どの学校からも閲覧し参考にできるようにしています。

大田市

課題

● 学習指導要領のねらいに沿った授業づくり

1 研究校 大田市立第一中学校 大田市立大田小学校

2 実施内容

○ 授業改善（能力ベースの授業づくり）

● 学校訪問通覧指導

島根県立大学教授 齊藤一弥氏による市内全小中学校訪問通覧指導を実施しました。通覧指導では授業を参観し、その授業をもとに、能力ベースの授業づくりについて個別指導を行います。今年度は、22校で58名の教員が個別指導を受けました。

● 能力ベースの授業づくり講座



【授業研究会】（グループ協議&齊藤氏の指導講評）

【研修のアンケートより】

● 1～6年の学習内容の系統性をきちんと捉えていくことの大切さを改めて感じた。これまでの既習事項を子ども自身が学習のなかで使っていけるようにすると共に、先を見通した学習展開を考えていきたい。何を学び、何ができるようになるかを意識して、再度授業構成を見つめ直したい。

「能力ベースの授業づくり講座」は、教材研究会と授業研究会をセットで行います。児童生徒が統合的・発展的に考える力を身に付けるために、「なぜ」、「何を」、「どのように」指導するのかが視점에協議し、齊藤氏から指導講評をいただきます。学習指導案は「大田市型能力ベースの学習指導案」を活用しています。

○ 本物（専門家）に触れる豊かな体験

「驚き」「感動」「発見」のある本物に触れる体験と授業を結びつけていくことで、学びへの意欲や探究心を高めます。大田小学校では、島根県立三瓶自然館サヒメルで、天体観測や地層観察を実施しました。第一中学校では、松江工業高等専門学校による出前授業「飛行機」を実施しました。専門家のリレー講義、実物のグライダーに触れたり、自分で作った紙飛行機の飛行実験を行ったりしました。



【地層調査】



【松江工業高等専門学校による出前授業】

○ 教員が学べる場の開発・提供

● 学びの情報発信

学習指導案、研修で使用した資料などを、校内研修用のデータとして学校と共有しています。

● ICT活用研修会

教員のニーズに沿ったICT機器の活用研修を行っています。教員が講師を務める場合もあります。

● 先進校視察

能力ベースの授業づくり先進地である高知県の授業づくり研修会を視察し、学びを共有しています。

● 教職員自主研修サークル「らとう会」

00	齊藤先生（報告）
01	学習指導案（大田市-実践済+様式）
02	大田市教委等 作成資料
03	研修会用資料
04	学習指導案作成用資料（高知県資料+指導案）
05	学習指導要領改訂のポイント（文部科学省）
06	各教科等の「見方・考え方」
07	学習指導要領解説データ（文部科学省）
08	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（文部科学省）
09	校内研修用資料（校長会・市教研など）
10	その他のデータ

【学びの情報発信】





しまねの学力育成プロジェクト
～ 1年目の取組事例紹介 ～